

事業所における自己評価結果(公表)

(児童発達支援)

別紙3

公表:令和5年5月12日

事業所名:児童発達支援ぱぷりかランド

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点★解説
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		<ul style="list-style-type: none"> 活動スペースの確保ができています。 ★スペース的には集団療育できる広いスペースから個別療育する小スペースを利用人数や療育内容に応じて空間づくりをすることができる。
	②	職員の配置数は適切である	7	1	<ul style="list-style-type: none"> 基準人員の確保ができています。 適切になるよう声をかけあっている。 集団での活動の際に時々人員不足を感じる。 人員配置は満たしていますが子どものその日の状態で多くの手があるといいと思います。 ★人員配置は厳守しています。それ以上の職員を利用人数や内容に応じて配置をしています。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	2	<ul style="list-style-type: none"> 玄関等の段差はありますが構造上仕方がないと考えます。 玄関前の階段、駐車場がないこと送迎時に少々困りそう。 ★建物的な不便さはあるかもしれませんが、良い面もあります。子どもが飛び出しにくい階段や交通量の少ない道。物理的な欠点は職員対応でカバーする事ができます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8		<ul style="list-style-type: none"> 毎日の清掃と安全点検を行っている。コロナ禍においては風通しが非常に良い空間ではあるがAirDogの設置もしている。危険物は全て事務室で保管管理している。 毎日欠かさず清掃をしている。 ★風や光を十分に取り入れることのできる生活空間です。 ★スペース的には集団療育できる広いスペースから個別療育する小スペースを利用人数や療育内容に応じて空間づくりをすることができる。 ★屋外遊びを豊かにするための公園が事業所の真横にありフレキシブルに子どもたちの活動に合わせることができます。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8		<ul style="list-style-type: none"> 教育理念に基づいた業務実践を行っている。 ★全職員で業務改善は行います。PDCAで大切なのは見直しです。常に子どもと保護者様の状況を認識いたします。 ★業務改善の為の職員の知識・技術の向上への取組は高い意識の元毎日行っています。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		<ul style="list-style-type: none"> アンケート集計結果を踏まえたうえでの支援の質向上に向けて更に話し合いの場を設けていきたい。 ★家庭支援、家庭教育をしていくうえで保護者様の声は重要な教育資源なので柔軟に対応していきます。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		<ul style="list-style-type: none"> ★評価表を取りっぱなしにすることがないよう、職員の意識の向上、保護者様との情報交流を行っていきます。

適切な支援の提供	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	4	★事業所及び職員の成果向上のために、外部評価も視野に入れ自分たちが見落としている箇所を改善していきたいと考えます。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		社内研修及び外部研修に参加し資料を残している。 ★「職員の成長なくして、子どもの成長はなし」のごとく、よりよい療育、教育を目指し、研修はもとより毎日を学びの場としています。 ★職員の研修は非常に力を入れています。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8		保護者との面談を定期的に行いニーズと課題を把握又担当指導員による目標→評価の記録を基に話し合い計画を行っている。 ★療育・教育方針を決める上でアセスメントは保護者様との重要な機会及び保護者様の学びの場としています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		ガイドラインによる5領域を中心に生活能力の評価を行い支援に繋げている。 ★ヒアリング事項を充実させたアセスメントツールの開発をしています。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8		保護者との直接面談を通し必要な項目を選択している。定期的なモニタリングを行い評価をした上で必要な課題、ニーズに向けた具体的な支援内容を設定。保護者様への説明と確認をとり支援を行っている。 ★支援計画書はいわゆる設計図なのでガイドラインを参考にしながら子どもと保護者様の細部にわたり配慮考慮した計画づくりを行い、その運用をしっかりと行っています。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8		個別支援計画に沿った月間計画立案、毎日の振り返りを行っている。 ★支援計画の実践においては毎日の一挙手一投足で目標に向けて行います。 ★一日一日の「振り返りシート」を作成し、先生の指導改善を毎回思考している。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		ミーティングの中で活動プログラム立案及びセッション研究をチームで行っている。 ★音楽療育とはチーム療育でもあります。活動プログラムの立案においては職員のチーム力が当事業所の強みでもあります。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		集団活動では季節に適したプログラムや音楽療育を取り入れたプログラム等日々研究している。 ★★もともと音楽療育というのはプログラムが固定化しないことが特徴です。事前に準備したプログラムでも子どもの様子、気持ち、感情などその時の状況によりフレキシブルに対応することが可能である。常に最適な療育ができるよう準備しています。 ・プログラムの固定化と教育上の習慣形成は全く違うものなので、しっかり区別をしています。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8		アセスメント、モニタリングで聞き取りをした課題やニーズに沿って個別集団の中で支援方法を適宜取り入れている。 ★支援計画作成においては子ども本人の状況はもとより、保護者様や家族環境、生活環境も視野に入れ計画作成を行います。

	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝と昼食後にミーティングを行い情報共有と個別に担当者を決めている。また活動担当者も決めている。 ・毎日欠かさず打合せを行っている。 ★これは基本中の基本としてとらえ、子ども本人や保護者様、職員の当日の体調、感情、気持ちを配慮し利用時間を有意義なものに作り上げています。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7 1	<ul style="list-style-type: none"> ・降所後に振り返りを行い翌日朝のミーティングにて引継ぎを行っている。ミーティングノートに記録し全職員の共通理解に努めている。 ・日々セッション後気になった児童について話し合いを行っている。 ★その日の支援をやりっぱなしにするのではなく、「もし、もう一度支援をするなら」の問いを思考し、次につなげる「気づき」を獲得します。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス提供記録、個別療育記録に記録。 ・セッション後必ず振り返りを記入している。 ★記録とは成長結果のビフォーアフター及び全職員が全ての子ども状況を知る為にあると捉え、日々検証・改善の努力を絶やしません。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	<ul style="list-style-type: none"> 直接面談を実施している。 ★単なる一時的なモニタリングではなく子どもと保護者様の状況によっては回数を増やし状況改善に努めます。
関係機関や保護者との連携関係	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて管理者、児童発達支援管理責任者が出席。 ★担当職員や緊急及び重要な事柄においては設置者も参画いたします。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて情報共有や相談を行っている。 ★子どもと保護者様の利益を最大限にするための連携に努めます。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5 3	<ul style="list-style-type: none"> ・現在医療的ケアの対象となる方の利用なし。 ・医療機関を受診した際の主治医の所見等を保護者様から伺い職員間で共有している。 ★日常の体調不調、けがにも即対応できる準備を怠りません。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5 3	<ul style="list-style-type: none"> 現在医療的ケアの対象となる方の利用なし。 ★日常の体調不調、けがにも即対応できる準備を怠りません。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	<ul style="list-style-type: none"> こちらから情報発信は行っていないが、適時情報共有と相互理解に努めている。 ★保護者様や各教育機関からの要請、ご要望には積極的に対応していきます。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	<ul style="list-style-type: none"> こちらから情報発信は行っていないが、適時情報共有と相互理解に努めている。 ★保護者様や各教育機関との要請、ご要望には積極的に対応していきます。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7 1	<ul style="list-style-type: none"> 機会があれば受けたい ★ぜひ、各所専門機関様のご指導を受けたいと思います。

保護者との連携

⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	6	<ul style="list-style-type: none"> ・機会があればぜひ参加したい ・少しずつ実現することを願います。 ★コロナ緩和後、積極的に取り組んでいきたい。
㉑	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	5	<ul style="list-style-type: none"> 機会があればぜひ参加したい ★どんどん積極的に参加し、また主催も行いたい。
㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		<ul style="list-style-type: none"> 直接面談、電話相談、連絡帳での相談を随時受け付けている。全て記録し共通理解。 ★★当教室が送迎しない方針は「保護者様との直接会話」にあります。子どもだけに焦点をあてるだけでなく、しっかりと日頃からの保護者様との情報交換を大切にし、保護者様が学べる環境を用意しています。保護者様にも寄り添い協力して子どもの支援を行っています。
㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	8		<ul style="list-style-type: none"> 感染対策のために個々の家族支援を中心に行っている。 ★★当教室は「親の学び6割」をモットーとし、保護者様と共に子どもたちの支援に関わっています。保護者様にも学べる場としての勉強会を開催します。 特に「チャレンジシート」である目的目標設定シートの運用には力を入れており、そのための土台、環境づくりを行っています。

保護者への説明責任等

㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		<ul style="list-style-type: none"> 契約時に対面で丁寧に行っている。 ★支援内容については「家庭教育」にも力を入れているのでしっかりと保護者様と連携をとり、常に学ぶ姿勢で、説明及び確認をさせていただきます。
㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8		<ul style="list-style-type: none"> 支援内容の説明および確認を行い決定している。個々の特性や配慮すべき点とあわせて強みを伸ばせる支援内容の計画実践に努めている ★「家庭支援、家庭教育」の充実の為にも、保護者様にはしっかりと丁寧に支援内容を説明させて頂き、ご協力を得て保護者様と先生との両輪で子どもの支援、療育を行っています。
㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		<ul style="list-style-type: none"> 随時相談を受け付けており適する担当者と児童発達支援管理責任者を中心に対応している。 ★当事業所では「親の学び6割」というテーマを掲げています。子どもの教育に対して、不安や疑問、相談を助言するだけではなく、保護者様にも「学べる場」を提供し、保護者様も子どもたちも、先生たちも日々成長する環境を整えています。
㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	7	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策をとり現在は行っていません。 ・コロナのため今後開催する意向 ★今までは感染予防のため、思うようにできませんでしたが、コロナ緩和で定期的な「保護者勉強会」や父兄参観、演奏会などを行い、すべての保護者様が1つのチームになるような保護者同士の連携を行っています。
㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8		<ul style="list-style-type: none"> 随時相談(事業所内相談支援)を行う事を個別支援計画書に記載している。 ★相談内容によっては、緊急な事、重要な事に分けて対応します。 緊急な事についてはスピーディーかつ的確に対応いたします。 重要な事については、子どもや保護者様のみならず、ステークホルダーの方々にも、目を向け、本質的な課題解決に向けて対応いたします。

	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	<ul style="list-style-type: none"> ・行事予定を月カレンダーに記載の上お知らせを掲示板に載せている。 ・掲示板を活用しています。 ★日々の活動内容やお知らせは、事業所前にある「掲示板」をフル活用しています。 ★また地域の方も見ることができ、「地域支援」に繋がってきます。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	8	<ul style="list-style-type: none"> 鍵付き書庫 事務室で保管 ★プライバシーマーク取得企業です。 情報管理は厳しい体制をとっています。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	<ul style="list-style-type: none"> 特性に応じたコミュニケーション方法により伝達の為の配慮を行っている。 ★連絡ツールだけに頼るのではなく、私たちの意識を常に磨いておくことが大切と考えます。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3 5	★コロナが緩和されれば順次、音楽療育における演奏会、勉強会、イベントを行って行きます。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	<ul style="list-style-type: none"> 各マニュアルを作成し対応方針をパウチしすぐに確認できるようにしている。保護者への周知を今後行っていきたい。 ★地震マニュアル、火災マニュアル、不審者マニュアル、保護者様緊急マニュアル、体調不調マニュアル、感染マニュアル、を準備しています。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に避難訓練を実施。年2回以上。 ★社会でニュースになった時なども明日は我が身として臨時訓練を行う。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	8	<ul style="list-style-type: none"> 対応マニュアルを作成している。 ★子どものどのような状況でも当事業所に通うことを希望する時は子どもと保護者様を受け入れる姿勢を作っています。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	食事提供は行っていない。遅延型アナフィラキシー対応について個別にマニュアル作成をしている。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	<ul style="list-style-type: none"> 今後更に事例集と対策を徹底したい。 ★ヒヤリハット事例集は作成しています。危険防止の準備は日々退化していくので、想定外の事も視野に入れ取り組んで行きます。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会後の情報共有を徹底したい。 ・テレビのニュース等を議題に挙げて個人の意見を出し合ったり自分たちにあてはめて考える時間をつくりました。 ★虐待に関するすべての事柄は設置者の責任と捉え、職員の働く環境づくりを最優先に考えています。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5 2	<ul style="list-style-type: none"> 身体拘束を行うに値する支援方法はしていない。今後必要があれば検討の上個別支援計画書に記載する。 ★保護者様の承認及び職員の満場一致のもと、本人と他の人へのケガに対して危険性がある場合に考える事もあると思います。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。